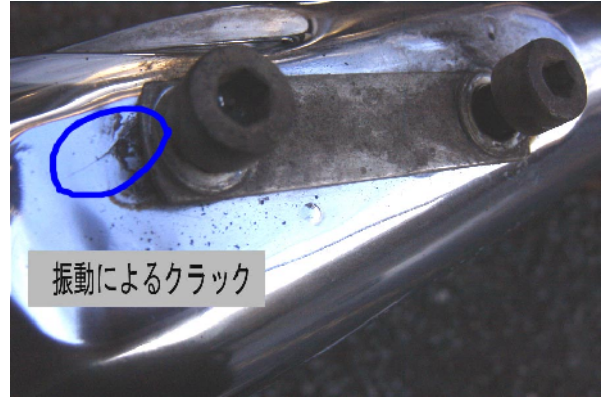


ガスケット劣化とマフラーのクラック

モノサスモデルのマフラーガスケットは材質が適切ではなく振動によりアソビが発生します。クランプスクリューを強く締付けてもガタツキが取れず、マフラーの振動を助長してしまい固定部近辺にクラックが発生し、高価なステンレスマフラー（後期型）が逝ってしまいます。



振動によるクラック

クランプを強く締めこむため新品のアルミ製ガスケットを入手してもマフラー差込み部パイプ内径が狭くなっているため取付け不能になってしまいます。リューターで出っ張り分削ったりして、結局ガタツキを除去できなくなり部品交換の意味がなくなります。



旧 アスベスト

新 アルミガスケット

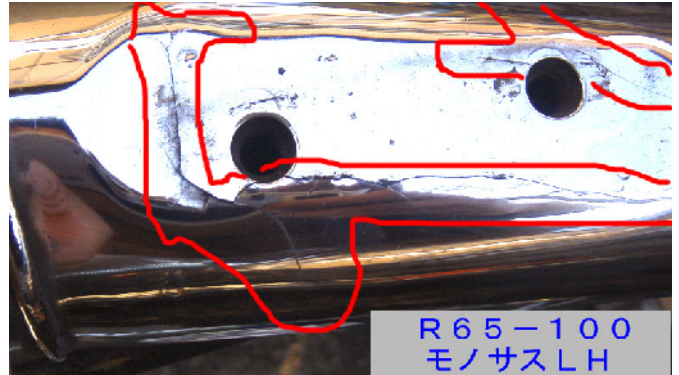


パイプエクspander

内径を修正するため本来自動車マフラー用のテールパイプトリマー（エキスパンダー）を使って元の内径に戻します。この状態でガスケットを差し込めばスリット部も重ならずスナリとマフラーが取付けられ、シッカリと固定できるためマフラーの振動が抑えられクラックも発生しなくなります。



↑
スリットが重ならないこと



R65-100
モノサスLH